

# 石川県漁海況情報



518号  
2023年3月17日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324  
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>  
携帯電話 [http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu\\_files/p-index.html](http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html)



## 本号の概要

### 石川県主要港の水揚状況(期間: 2月16日~28日)

- 底びき網ではアカガレイが好調でした。

### 調査船白山丸のアマエビ調査結果(期間:2月6日~10日)

- 2歳エビと4歳エビの採捕尾数は例年より多く、3歳エビの採捕尾数は例年並みの結果となりました。
- 本県主要港における2022年のアマエビの水揚量は685トン(前年比97%・過去5年平均比83%)でした。

### スルメイカ稚仔調査の結果(期間:2022年10月~11月)

- 今春以降に漁獲対象に成長するスルメイカ稚仔の発生量は前年および過去10年平均を下回りました。

## 石川県周辺海域の水温(期間:3月1日~5日)

■ 沿岸の海面水温 3月5日の本県周辺(海岸線より30海里程度)の海面水温は11~12℃台で、過去5年平均との差は±0.0~+1.0℃程度でした。

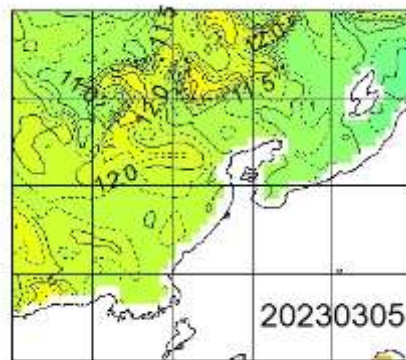
■ 沿岸観測ブイの水温 今期の水温は10.7~11.5℃で、2月中旬から約0.5℃低下しました。前年同時期との差は+0.8℃~+1.1℃、過去5年平均との差は+0.2~+0.5℃でした。

※観測ブイの位置:橋立、富来、門前、曾々木、小泊、小浦、鶴川、岸端の各沿岸(橋立、富来、門前、曾々木は現在休止中)

■ 港内の水温 今期の水温は11.2~11.7℃で、前年同時期との差は+1.0~+1.3℃、過去5年平均との差は+0.1~+1.6℃でした。

※港内:橋立漁港、宇出津港、石崎漁港

### 石川県周辺の海面水温



## 石川県主要港の水揚状況(期間: 2月16日~28日)

- 定置網 サバ・ブリ・カワハギは前年を上回り、マイワシは前年並みでした。
- まき網 フクラギ・コゾクラを主体とした水揚げでした。
- 底びき網・ごち網 アカガレイ・ニギス・アマエビなどは前年を上回りました。
- 刺網・釣り・その他 ベニズワイガニ・フグ類・ガンド・マダラ・ナマコなどは前年を上回りました。

## 調査船白山丸のアマエビ調査結果（期間：2月6日～10日）

■ 調査船白山丸は2月6～10日に金沢沖の水深375～500mの海域でアマエビ（標準和名：ホッコクアカエビ）の分布量調査を行いました。この調査は、金属枠に袋網をつけた漁具を30分間曳網し、漁獲したアマエビの量や大きさから、今後漁獲対象に成長する小型エビ（若齢エビ）の分布量を調べるもので、夏季と冬季の年2回実施しています。

■ 2歳（2021年生まれ）の1曳網当たりの採捕尾数は557尾（過去5年平均比398%）と多い結果でした。アマエビは4歳から漁獲の対象となりますので、同年級群が漁獲対象に成長する2025年以降に漁獲が上向くことが期待できる結果できます。

■ 3歳（2020年生まれ）の1曳網当たりの採捕尾数は107尾（過去5年平均比105%）でした。

■ 4歳（2019年生まれ）の1曳網当たりの採捕尾数は113尾（過去5年平均比160%）と多く、2023年に新たに漁獲対象となった個体は例年より多かったと推測されました。

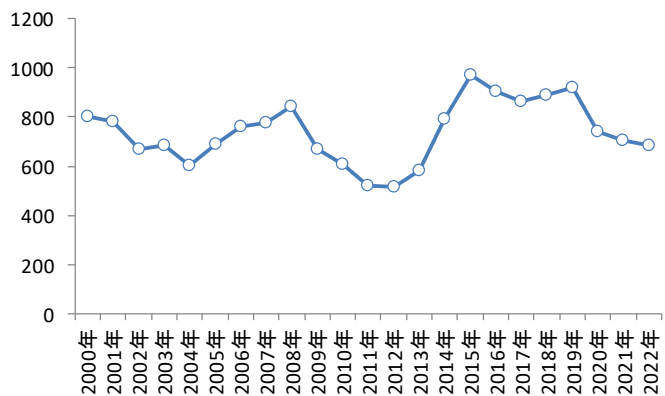
■ 県内主要港における2022年のアマエビの水揚量は685トン（前年比97%・過去5年平均比83%）でした。

冬季調査における年齢別アマエビ採集尾数（尾/網）

調査年	2歳	3歳	4歳
2009年	3	49	12
2010年	99	8	90
2011年	82	134	42
2012年	384	64	75
2013年	183	256	81
2014年	95	248	265
2015年	88	225	247
2016年	219	16	87
2017年	77	226	72
2018年	10	68	121
2019年	115	65	76
2020年	292	71	87
2021年	217	114	32
2022年	66	187	36
2023年	557	107	113

本県主要10港におけるアマエビ漁獲量

単位(トン)

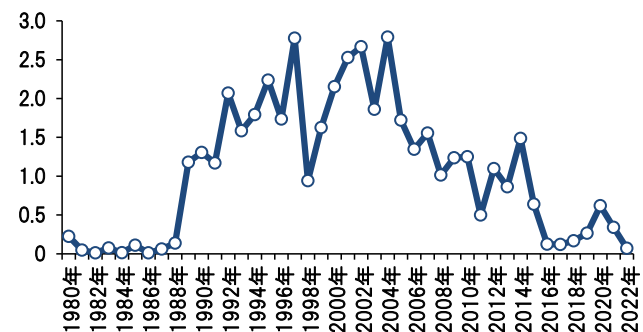


## スルメイカ稚仔調査の結果（期間：2022年10月～11月）

■ 日本海に分布するスルメイカは主に秋頃に生まれ、翌年の春以降に漁獲されます。水産研究・教育機構は孵化直後のスルメイカ稚仔（外套長1～3mm程度）の分布状況を調べるため、毎年秋に山陰から九州北西部の沿岸でプランクトンネットによる採集調査を行っており、昨年10月から11月には合計75点で調査が行われました。

■ 調査点当たりの稚仔採集個体数は0.07尾と前年（0.34尾）および過去10年平均（0.57尾）を下回りました。採集個体数は資源量の多かった2000年代前半より低い水準に留まっていることから、今後も資源動向に注意する必要があります。

単位(尾/網) 調査点当たり稚仔採集個体数



集計期間2月16日～2月28日 (漁獲量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
<b>定置網</b>									
まいわし					449.0	758.4	1367.8	2575.2	2946.5
さば					17.6	163.3	199.5	380.4	144.2
ぶり					0.3	4.2	16.7	21.1	0.8
かわはぎ(ウマヅラ)			0.1		1.8	8.8	4.5	15.1	1.8
するめいか					0.0	0.1	8.9	9.1	16.5
めじ(クマガロ)					0.4	5.3	2.1	7.8	0.4
まあじ					2.8	1.4	2.3	6.5	4.8
まだら			0.5		0.3	2.5	0.7	4.0	2.8
やりいか			0.0		0.3	0.5	0.8	1.6	1.0
ふくらぎ・こそくら			0.0		0.5	0.2	0.1	0.8	1.6
くろまぐろ					0.1	0.2	0.3	0.6	
まだい			0.0		0.1	0.1	0.2	0.5	0.4
心ぐ類			0.0		0.1	0.1	0.1	0.4	0.4
その他			0.3		0.6	2.5	48.4	51.7	66.7
<b>合計</b>			0.9		474.1	947.5	1652.4	3074.8	3188.1
<b>まき網</b>									
ふくらぎ・こそくら	—	27.1				—	3.7	30.8	
がんど	—	2.3				—	0.3	2.6	0.6
ぶり	—	0.9				—		0.9	43.8
まだい	—	0.7				—	0.0	0.7	
心ぐ類	—	0.0				—		0.0	
その他	—	0.0				—	0.0	0.0	
<b>合計</b>	—	31.1				—	4.0	35.0	44.4
<b>底びき網・ごち網</b>									
あかがれい	38.8	6.8	3.3	12.7	0.3	0.0	—	61.8	23.0
にぎす	0.3	7.2	22.8	0.0			—	30.2	8.5
あまえび	0.2	4.1	6.2	4.5	0.0		—	15.1	3.2
ズワイガニ雄(加能ガニ)	0.5	4.3	0.4	2.6	5.5		—	13.3	5.3
そうはち	4.3	1.8		2.6	0.0		—	8.7	1.2
あからばちめ(ハツメ)				6.4	0.1		—	6.5	0.5
まだら	2.4	0.7	0.4	2.4	0.0		—	6.0	2.7
心ぐ類	0.3	0.0	0.0	4.0			—	4.4	3.0
その他	5.5	8.5	6.2	19.4	0.6	0.4	—	40.6	13.9
<b>合計</b>	52.3	33.4	39.3	54.7	6.6	0.5	—	186.7	61.3
<b>刺網・釣り・その他</b>									
べにずわいがに		33.7						33.7	16.8
心ぐ類			2.9	24.1	0.0	0.0		27.0	2.1
がんど			0.0	16.1			0.0	16.1	2.4
まだら	0.0		0.0		2.9	9.5	0.0	12.4	8.1
なまこ			0.1		0.3	8.5	1.3	10.2	6.4
ぶり			0.0	3.4		0.0		3.4	0.0
あまえび			2.8					2.8	1.1
あからばちめ(ハツメ)				2.3		0.0		2.3	1.4
その他	2.5	0.4	1.2	5.1	2.1	8.6	3.8	23.5	13.4
<b>合計</b>	2.5	34.1	6.9	51.0	5.3	26.7	5.1	131.5	51.9
<b>総計</b>	54.8	98.5	47.1	105.6	486.0	974.7	1661.5	3428.1	3345.6

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計